

チャペル・ブックレット

宗教部では今までの「宗教講演会」のお話をブックレットにまとめ、発行しています。無料でどなたにでも差し上げますので、ご希望の方は、キリスト教センターへどうぞ。チャペルにも置いてあります。

- No.1. 「経済の論理と人間の論理」(塩沢 美代子)
- No.2. 「心を問い続けて」(谷 昌恒)
- No.3. 「国際化時代におけるキリスト教の使命」(徐 洸善)
- No.4. 「激動化する現代史と神のみことば」(池 明観)
- No.5. 「生きることの感動」(金 纓)
- No.6. 「生きるよろこび」(村田 佳寿子)
- No.7. 「心を支えているもの」(山本 将信)
- No.8. 「主の愛この眼にありて」(武岡 洋治)
- No.9. 「日本におけるキリスト教主義大学の使命」(池 明観)
- No.10. 「いのちを支えるホスピスケア」(柏木 哲夫)
- No.11. 「天と地のひびき」(小塩 節)
- No.12. 「絵本のちから」(松居 直)
- No.13. 「ハイジ、クララは歩かなくてはいけないの？  
—こどもの物語と聖書に見られるくしょうがい者>差別—  
(荒井 英子)
- No.14. 「お父さん、僕はなに人？ —間 (はざま) から読む聖書—  
(金 永秀)
- No.15. 「人権・生命の尊厳—野宿生活者の現場から—」(松本 普)
- No.16. 「地球に、そして日本に生まれて今ここにいる」(太田 信吉)
- No.17. 「メイク・ア・ウィッシュ〜夢の応援団」(原 順子)
- No.18. 「人間関係を生きる知恵」(島 しづ子)
- No.19. 「命のことば」(水谷 誠)

目 次

- 新入生の皆さんへ .....(2)
- F.C. クラインの説教と敬神愛人 ..... 黒柳志仁(4)
- 「夢」を叶える方法の増やし方 ..... 山下匡将(9)
- 夕べがあり、朝があった。..... 福井 智(12)



## 新入生の皆さんへ

### 敬神愛人



(F.C.クライン)

「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」  
イエスは言われた。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを  
尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最  
も重要な第一の掟である。

第二も、これと同じように重要である。「隣人を自分の  
ように愛しなさい。」

(新約聖書 マタイによる福音書22章36～39節)

名古屋学院大学に入学された皆さん、ご入学おめでとうございます。  
皆さんは自分で選んだにせよ、大学に選ばれたにせよ、とにかくこの大  
学の学生となられたのです。皆さんはこの大学について何をご存知で  
しょうか。これからいろいろな機会に聞かれたり、読まれたりされるで  
しょうが、ここでも少しお話したいと思います。

☆

私立の学校はそれぞれ独自の理念、「建学の精神」を持って建てられ、  
またそれを継承して運営されています。わが名古屋学院大学の「建学の  
精神」は「敬神愛人」です。これは前述の新約聖書から引用されました。

人間は神を愛し敬うこと、そして自分を愛するように隣人を愛すること、  
この「敬神」と「愛人」を一番大切な掟として守らなければならないとい  
う、イエス・キリストの教えです。これは、ただ人と仲良くしなさいとい  
うヒューマニズムからだけでなく、神を敬うことによって成立する隣  
人愛です。これを教育の基本にしているのです。

☆

1883年、アメリカからフレデリック・チャールズ・クライン (F. C.  
Klein) という宣教師がキリスト教の伝道と英語学校を目的として来日  
しました。そして横浜に英語学校、教会をつくるなど伝道の成果をあ

げ、彼が次の着任地として夫人とともに名古屋に来たのは1887年です。  
彼らは名古屋に着いたその日から英語の学校を開いたのです。現  
在は名古屋市中区栄のちょっと東に位置します。その「私立愛知英語学  
校」は「名古屋英和学校」と改称し、これがわが名古屋学院大学の基とな  
りました。

その時、クライン博士がその教育の基本理念として掲げたのが「敬神  
愛人」でした。

☆

新入生の皆さん、皆さんはこれから少なくとも四年間はこの大学の学  
生として勉強をしていくのです。ここでは勉強ばかりでなく、人間を成  
長させていくことにも励んでください。

そして私たちは祈っています。「敬神愛人」が示すように、皆さんが自  
分を愛するように他人を愛することができますように、また、人間の力  
を過信することなく、それをはるかに超えた存在を認める、謙虚な人間  
へと成長を遂げることができますように。

### ◆ チャペルへの招き ◆

チャペルでは週に二回、チャペルアワー、カレッジアワーと称してキ  
リスト教の礼拝の時間を設けております。チャペルに集い、教職員や近  
郊の牧師の奨励を聴き、賛美歌を歌います。大学は決して、皆さんにキリ  
スト教の信仰を持たせようと考えているわけではありませんが、世界の  
大きな文化の源流の一つともいえるキリスト教に少しでも触れて、何か  
を感じていただければと考えております。

<名古屋キャンパス>:チャペルアワー 火曜日12:40～13:10 白鳥学舎チャペル  
カレッジアワー 木曜日12:40～13:10 白鳥学舎チャペル

<瀬戸キャンパス>:チャペルアワー 金曜日13:00～13:30 瀬戸学舎チャペル  
(第1週目の金曜日はカレッジアワーとして実施)

☆

チャペルは原則としていつでも開いています。静かに落ち着きたいとき  
はどうぞお気軽に利用してください。ただし、大声でのおしゃべり、飲食  
は禁止です。チャペルの椅子に座り、静かに自分と向き合い、語りかけ、そ  
して内なる声に耳を傾けると、新しい導きをそこに見出したり、また何  
か発見があるかもしれません。また、チャペルでは宗教講演会やコンサ  
ートなどの様々な行事や勉強会などを行っています。

## F.C. クラインの説教と敬神愛人

黒柳志仁

どうか、主があなたがたを、お互いの愛とすべての人への愛とで、豊かに満ちあふれさせてくださいますように、わたしたちがあなたがたを愛しているように。そしてわたしたちの主イエスが、御自身に属するすべての聖なる者たちと共に来られるとき、あなたがたの心を強め、わたしたちの父である神の御前で、聖なる、非のうちどころのない者としてくださるよう。

(新約聖書 テサロニケの信徒への手紙一 3章12～13節)

地下鉄日野駅から大学に来ますと、チャペルの横に「敬神愛人」と書かれた碑(いしぶみ)が見えます。また、本館曙館の入り口、そしてチャペルの中にも敬神愛人、「神を敬い、人を愛せよ」という言葉が掲げられています。名古屋学院大学は、1887年に設立された名古屋英和学校を前身とし、キリスト教の教えである敬神愛人を建学の精神とするミッションスクールであります。翼館4階にクラインホールがありますけれども、名古屋英和学校の初代校長がF.C.クライン(Frederick Charles Klein, 1857-1926)であることがその名の由来であるわけです。

今まで、このクラインが本学のスクールモットーである敬神愛人を、どのように語ってきたのか、どのように理解してきたのかについて、充

分に調査されてきたとは言えませんが、彼が著作を残しておらず、米国に存在する書簡の検証が進んでいないなどの理由で、クラインの思想を知るには、資料が少ない状況であるわけです。そして創立者クラインの教育理念は、おそらく名古屋英和学校創立以前から形成されていますから、その理念のルーツを探求することは、名古屋学院大学の志、ミッションステートメントにも結びつくはずですが、私たちは、敬神愛人を実践するためにクラインの思想と生涯を知る必要があるのです。

今日ご紹介をするのは、1884年(明治17年)1月13日、横浜でプロテスタント諸教派が集まった初週祈禱会におけるクラインの説教<sup>1</sup>、すなわち「教え」であります。ここから若きクラインの思想を読み取ること

ができます。

1884年1月というのは、26歳のクラインが妻メアリーと共に初めて来日し、横浜に住んで4ヶ月目、名古屋英和学校が誕生する3年前のことです。東京では鹿鳴館時代がはじまり、日本に洋服が流行りはじめる頃で、日本が英語教育を取り入れ、欧米のように文化、教育など、近代化に邁進する時代でもあります。一方で信仰の自由が憲法で認められておらず、外国から来た宣教師たちは信仰上の差別を受けていた時代でもあるわけです。明治の時代背景を想像しながら、私たちの大学の創立者クラインがどんなことを教会で話していたのかな、という気持ちで聞いて頂きたいと思います。原文は英語ですので、今回は私が訳語を試してみました。

\*

キリストの苦しみに導かれた弟子たちへの愛は明らかです。キリストが行った弟子たちへの賢明な弁護、そしてキリストによる篤い信仰の忠告は、すべてに勝り得られるものが大きいのです。疑いもなく、テサロニケ<sup>2</sup>の人々が、愛によって豊かに満ち溢れている理由が、このテキストからも明らかであり、その同様の理由は、今日、私たちが存在するため、つまり私たちが使命の中で、神の

御前で、非のうちどころのない者として成長し、愛によってなすべき理由がここにあります。

なぜ私たちは愛にあふれている必要があるのでしょうか。それは神のご命令であり、キリストのもつ本質的な意味でもあるからです。私たちは多くの偏見を受ける被験者でもあります。私たちは地元の人々から頻繁に偏見を受けますし、私たちの考えに対して不適切であるとさえ、結論を出されることもあります。そのような時、私たちは相手に対して、すぐに長所を得ようとしようとすあまり、相手の短所でさえ、度をすぎた、見下しさえすることがあります。イギリスのバプテスト派で、神学校、孤児院、養老院を設立したスボルジョン<sup>3</sup>が言うように、愛に富むためには、どのような状況でさえも、愛を必要とするのです。「愛は忠実の骨髄、信仰深さの静脈、精神的強さの腱、いや、誠実な献身の生活です」。愛の源は神の内にあります。そして使徒たちが言うように「神は愛そのもの」であり、神の愛は聖霊によって私たちの心に流されているのです。神への本質的な信頼は、必然的な結果として、愛を証し、キリスト者の新たな目覚めの力は、愛によって行使されるのです。それはつまり、キリスト

1 本説教は、1984年1月6日から同13日、東京・築地と横浜とを会場として開催された初週祈禱会(The Week of Prayer)の最後に、クラインが横浜の教会で行ったものである。その内容は、週刊英字紙『The Japan Weekly Mail』1月19日号に308行に渡って掲載されている。なお本説教は、本学瀬戸キャンパス総合事務部・山内隆文氏の調査により今回見つかったものである。

2 テサロニケ:ギリシャの都市の名前で、使徒パウロがキリスト教を最初に布教した地とされる。

3 Charles Haddon Spurgeon:(1839-1892)英国のバプテスト派、のちにカルヴァン神学を提唱した牧師。



者にとって愛は、イエス・キリストの福音を通して受け入れられるすべての希望を確信するだけの基盤を持っていることになるのです。「神が私たちを愛されたのですから、私たちも互いに愛し合うべきです」(ヨハネの手紙一3章11節)。イエス・キリストが示された愛は本来、幅広く、地球全体に満ちたものです。しかし私たちが愛する範囲や条件を制限してしまった場合、キリスト教の示す愛の幅を下回ることになります。

パウロはこの「テサロニケの信徒への手紙」において、私たちが愛によって、聖なるものになることを神が望んでおられることを重ねて強調しています。私は兄弟愛の促しを受けけるすべての人を尊び、愛します。私はその相手が、例え神社で謙虚な奉仕者であったとしても、思想と労働の中で、そして、生と死における尊厳の中で、兄弟愛の広がり、心に共感し合える教えを宣べ伝えます。

私たちは、住民とのさらなる仲たがいを求めるのではなく、この島で、キリスト者として、ここにいます。彼らの聖像を破壊する行為や、彼らの寺院を破壊するといった、彼らに対して地位の主張を示すことはせず、自分の考えを結びつけ、開いた聖書と共に、今日の日本でそれを神に感謝します。神は本当に、私たちを愛して、永遠の慰めと確かな希望とを、恵みによって与えてくださるのでしょうか。

愛はキリスト教精神の中でも、礎

となっています。そして信仰深い生活を通して、その愛が行使されるのならば、それは優美さであり、私たちの主イエス・キリストを知り、私たちに成長を促してくれます。聖書は私たちにそれを証し、来たるべきキリストの到来の日に、私たちの心は、神聖と潔白をもって示される必要があるのです。それはなぜでしょうか。

キリストは聖なるものであり、私たちは彼に追従する者として「聖なる生活を抜きにして、誰も主を見ることはできない」(ヘブライ人への手紙12章14節)からです。人の体は不完全ですが、イエス・キリストは原罪以来、唯一完全な人でした。人の体が墓で葬られるとき、それはまだ不完全であるのですが、人の魂は、イエス・キリストの信仰において死んだのなら、イエスの血によって清められるのです。「御子イエスの血によってあらゆる罪から清められ」(ヨハネの手紙一1章7節)、そして天国と天使に召されるのです。

復活の時、その体は、完全なるものになり、キリストの内へと栄光の体となるのです。その魂は栄光の体をまとい、来たるべきキリストのホーリネス(聖化)のうちにあらわされま。私たちは今、ふさわしいキリスト者となるために、こうした恵みと成長の業をはじめない限り、指し示すことはできません。「死者は復活して朽ちない者とされ、変えられます。この朽ちるべきものが朽ちないもの

を着、この死ぬべきものが死なないものを必ず着る」ことになるのです(コリントの信徒への手紙一15章53節)。そして神の子イエスの言葉にあるように「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者はだれも決して死ぬことはない」のです(ヨハネによる福音書11章25節)。キリストが死に、そして生きたのは、死んだ人にも生きた人にも主となるためです。私たちは皆、神の裁きの座に立つのです。イザヤ書にはこう書いてあります。「主は言われる。『わたしは生きています。すべてのひびきは私の前にかがみ、すべての舌が神をほめたたえる』」と。それを私たちがお互い理解し、聞き入れることができるのであれば、幸せは時間となり、尊さは日々の生活となり、勝利は死となり、そして栄光は天において王の冠となるでしょう。

私たちの過ぎ去った時は変えることができません。その記憶はすでに閉じられています。しかし、もし仮に、神が私たちの過ちによって、教えてくださり、私たちの行いによって励ましてくださり、許してくださる

(くろやなぎ ゆきひと 国際文化学部講師 2015.11.10 チャペルアワー奨励)

のであれば、私たちは勇気をもって来たるべき苦しみにも立ち向かい、愛において探し求め、その終わりまでを導いて下さる主イエス・キリストが、ホーリネス(聖化)において私たちに指し示してくれるのです。

\*

以上であります。時間の都合上、内容を省略しましたがけれども、このようにクラインは、横浜に来日して間もない頃から、愛を取り上げ、教会で話していたことが分かります。クラインは愛ということ、教師はイエス・キリストただ御一人であり、聖書の言葉を通して、篤い信仰において、そして言語や文化の異なる日本人々との、お互いの交わりを通して学びあうことを大切にしていたように思います。

どうかみなさんも、クラインが建てた学校で学ぶ者の一人として、愛について聖書から学び、共に考え、愛が絶えず新しい意味をもって私たちの間に示されるように、学生生活を通して、そして人生を通して、深めてもらえればと思います。

# 「夢」を叶える方法の増やし方

山下 匡将

## THE WEEK OF PRAYER.

The programme for the Twenty-fifth Anniversary of the Week of Prayer to be held from the 6th to the 13th inst., has been published and circulated as usual by the Japan Branch of the Evangelical Alliance. The Arrangements for Meetings to be held in Tokiyo and Yokohama are as follows:—

TOKIO,  
UNION CHURCH, TSUKIJI.  
Sunday—11 a.m., Sermon by the Rev. D. S. Spencer  
Monday—4 p.m., Prayer-meeting led by the Rev. C. D. Fisher  
Tuesday—4 p.m., Prayer-meeting led by the Rev. J. P. Moore  
Wednesday—4 p.m., Prayer-meeting led by the Rev. C. S. Eby  
Thursday—2.30 p.m. The Tenth Annual Meeting of the Evangelical Alliance of Japan. Addresses by the President Rev. Hugh Waddell, "Review of Christian Work during the year 1883;" Dr. C. G. Knott, "Dreams of the Past, and Facts of the Present;" Rev. A. A. Bennett, "Allegiance the Strength of Alliance."  
Friday—4 p.m., Prayer-meeting led by the Rev. Mr. Cole  
Saturday—4 p.m., Prayer-meeting led by the Rev. D. S. Spencer  
Sunday—11 a.m., Sermon by the Rev. D. Thompson  
YOKOHAMA.  
Sunday—Union Church, 11 a.m., Sermon by the Rev. J. T. Smith  
No. 212, Bluff, 8 p.m., Prayer-meeting led by J. A. Thompson, Esq.  
Monday—Seamen's Mission, No. 86, 5 p.m., Prayer-meeting led by Rev. H. Loomis  
Tuesday—Seamen's Mission, No. 86, 5 p.m., Prayer-meeting led by Rev. E. S. Booth  
Wednesday—Seamen's Mission, No. 86, 5 p.m., Prayer-meeting led by A. J. Wilkin, Esq.  
Thursday—Seamen's Mission, No. 86, 5 p.m., Prayer-meeting led by Dr. T. W. Gulick  
Friday—Seamen's Mission, No. 86, 5 p.m., Prayer-meeting led by Rev. W. C. Davison  
Saturday—Seamen's Mission, No. 86, 5 p.m., Prayer-meeting led by Rev. T. P. Poate  
Sunday—Union Church, 11 a.m., Sermon by the Rev. F. C. Klein  
No. 212, Bluff, 8 p.m., Prayer-meeting led by Rev. C. E. Garst

クラインの説教を予告する英字紙(1884年1月5日)

はじめに

現代社会学科で講師をしています山下です。専門は社会福祉ということで、社会福祉士という資格をとって、社会的弱者と呼ばれている方々への支援というものにたずさわってまいりました。大学では、そういったところで活躍できる学生たちを育てることを目標に頑張っています。クラブ活動では、ダンス部に関わっています。瀬戸ダンス部は立ち上げから、名古屋ダンス部の方は最近関わるようになりましたが、クラブの顧問(部長)として活動しています。私がこの大学に来て8年になるのですが、カレッジアワーで初めてお話をさせていただきます。今回このような機会を設けていただいたキリスト教センターの皆さまに、また、聴きにきてくださった皆さまにも御礼申し上げます。と思います。

いきなり私事で大変恐縮ではありますが、実は6月2日に33歳になりました。もともと老けて見られるので「あれで33歳?」と思うかもしれませんが、いつか若く見られる日が来ることを望んでいます。33歳になったということは、大学卒業から10年という時間の経過があったということで、10年という時間は、本当に「あ

という間」だったように感じます。

父の教え

大学4年生の頃の私は、夏を迎えても就職活動をしないう、ストリートダンスに明け暮れる、そういう日々を送っていました。今はこんな体型になっていますが、とても細かった頃の私は、高校入学と同時に始めたダンスのスキルを活かして、大学に通いながらヒップホップダンスのインストラクターをしていました。しかし、さすがに夏も終わりに近づくと、周囲から「卒業後どうするの?」という声があがるようになりました。そもそも高校卒業の時に、大学へ進学するか、ダンスの専門学校に通うか、その2択でずっと悩んでいました。父親の「大学へいける頭があるのなら行って欲しい」という言葉に推されて、私は大学進学の道を選んだのです。

私の父ですが、中学卒業後に溶接工になりまして、その後自ら花屋を立ち上げて、いくつかのスーパーにテナントを出すくらいの大きさにまで会社を育てたという、かなり異色の経歴の持ち主です。その父が私にこのような話をしてくれました。

商売で出会う自分よりもひと回り

もふた回りも若い大卒の若者たちを見ていて、知識や技術という面では、大学に行かなくても十分に負けないものを身につけることができたと思う。ただ、人とのつながり、ネットワークとかコネクションの広さは、どうしても大学に行った人たちにはかなわない。なにより、(大学は)いろいろな地域からたくさんの人が集まってくる場所であるから、多様な価値観に触れるととてもいい機会だ。だから、多くの人と出会うために大学に行って欲しい。

まあそういうやり取りがあったわけですが、いざ入学してしまうと忘れてしまうものです。テキトーに大学に通い、テキトーに独り暮らしをエンジョイしつつ、ダンスに明け暮れて迎えた4年生の秋、私の将来を決定づける出来事がありました。

### 天才ダンサーの不安

たまたま、いくつかのダンス・スタジオからダンサーを選抜して一つの作品を作ろうという企画が立ち上がりまして、私はダンサーの一人として参加することになりました。その作品の振り付けを担当したのが、その時代にトップを走る天才ダンサーでした。憧れの人の振り付けで憧れの人と同じ舞台に立てるといふ喜びは、今でも思い浮かべるとワクワクするぐらい、とっても大きなものでした。そんな状態ですから、当時の私は大学卒業後も踊っていたい、ダンスで食べていきたいと、とても強く

願うようになりました。しかし、とある日の練習後、「少し飲もうか」と天才ダンサーに誘われて、一緒にお酒を飲むことになりました。そして、スタジオの片隅で缶ビールを飲みながら、天才ダンサーは私にこう言いました。私は「YAMA」と呼ばれていましたが、「YAMAは大学生だったよね。俺はね、YAMAが羨ましい。」はじめは何を言っているのかわかりませんでした。ダンスで成功してトップを走っている人が、なんで自分みたいなものを羨ましく思うのか、本当に不思議に思いました。「ダンスは怪我をしたら終わりなんだ。俺は高校を辞めて、インストラクターになったから、学歴は中卒だしね。」早くからダンスで生きることになった天才が抱える不安でした。そして、「ダンスはいつでもできる。でも大学生でいられるのは今だけだから、今はしっかり勉強したらいいよ」と続けました。4年生の秋ですよ、そんな時期に「今はしっかり勉強しなさい」というふうに言われるとは全く想像していなかったもので、将来の自分を見ようとして今の自分を見てなかったのかな…、と少し不思議な気持ちになりました。

### “自分なり”の夢の叶え方

それからの私は、今、自分が福祉というものを学ぶための学科にいることを意識するようになりました。すると、もし今スタジオに通っている人が高齢者になったらどうするんだ

ろう。障害を持った人がスタジオに入りたいと言ってきたらどうなるんだろう。スタジオに決まりがないということは、その受け入れというのはインストラクター次第なんだろうか。障害者が通えるダンス・スタジオができれば、障害を負ったインストラクターは、もしかしたらダンスをそのまま仕事として続けられるんじゃないだろうか…。自分のやってきたダンスというものと全くかけ離れているというか、そもそも興味を持っていなかった(自分の学んでいた)福祉というものがリンクしていったんです。さらに、当時は今のように入られていなくて、「道端でなんかガラの悪い奴が踊っている」みたいな感じで、むしろ評判は悪い方でしたので、福祉とリンクさせることで、そのストリートダンスのイメージアップにもつながるのではないかと考えるようになりました。山下なりの「ダンスでの食べ方」が見つかったのです。

### 人との出会いによって

その後は、「将来は何をしようか」ではなく、「いかに夢を実現させるか」ということが目標になったので、例えば、資格を持っていないよりも

持っていたほうが周りがより協力してくれるんじゃないか、学部卒よりは大学院卒のほうが言っていることを信用してくれるんじゃないだろうかなどと考え続けて、ついには大学の教員になってしまいました。

もちろん、他にも多くの方々からアドバイスをいただいたんですが、ある意味で私は先ほどの2人の男によって大学教員の道に進んだとも言えますし、導かれたとも言えると思います。おそらく皆さんにも「やりたいこと」「やりたかったこと」、そういった夢がある(あった)と思います。今学んでいること、他にも、今いる環境、それらがその夢と関係ないと感じるものであったとしても、決して悲観しないでください。今までのことをリセットしないでください。すでに夢を諦めてしまった人は、それをもう一度掘り起こしてみてください。たとえ、その夢を叶えるための王道と呼ばれるような道を進んでいなかったとしても、自分らしく夢を叶える道もあるからです。皆さんがこれまでに得てきた出会いやつながりが、あなたの夢を叶えるための方法を増やしてくれているはずです。そして、皆さんがこれから得る出会いやつながりは、夢の叶え方の選択肢をきっと増やしてくれるはずです。

(やました まさのぶ 現代社会学部講師 2015.6.4. カレッジアワー奨励)



# 夕べがあり、朝があった。

福井 智

初めに、神は天地を創造された。地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。神は光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。

(創世記 第1章1節～5節)

## クリスマスイブは24日の夜？

今年もあとわずかになって明後日クリスマスイブです。皆さん、今年のクリスマスイブはどなたと一緒に過ごされるのでしょうか。彼氏や彼女がおられる方は2人でお食事でもと考えているかもしれませんね。そんな彼氏も彼女もいないので友達とカラオケにでも行こうかと思っている人がいるかもしれません。いやいや、クリスマスなんて俺には関係ない、いつものようにアルバイトにいこう。そういう人もいるかもしれませんね。でもクリスマスイブと聞くと、なんとなく嬉しいような、そわそわするような、ウキウキするような、そんな気持ちになりますね。

クリスマスイブ、キリスト教主義大学で学んでいる皆さんにちょっと質問をしたいのですが、クリスマスは12月25日といわれておりますの

で、その夜、クリスマスイブというのは12月25日の夜じゃないかというふうにも思う人もいるかもしれませんね。でもなぜかクリスマスイブというのは12月24日の夜になっていますね。どうしてでしょうか。皆さん将来「あなたキリスト教主義の名古屋学院大学で勉強されたのでしょ。クリスマスの12月25日その夜がイブじゃないの。どうして24日がイブなの。ちょっと教えてよ」と誰かに聞かれ、その時になって大学の先生に電話して聞くのもなんだから、今日ちょっと一緒に学んでみたいと思うのですがそのヒントがさっき読みましたところに書かれてあるんですね。「夕べがあり、朝があった。第一の日である。」聖書の一日は朝からではなくて、前の日の夕方から始まっているんですね。夕べがあつて、朝があつて一日になるんです。25日は前の日

の24日の夕べからスタートするんです。だからクリスマスのイブは24日の夜になっているんです。

## 暗闇で学ぶこと

さて、聖書にはこんなところもありましたね。「闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。『光あれ。』」こうして、光があった。」光よりも闇の方が先にあったというわけです。闇の方が光よりも先に存在していた。その闇を神様が光にされた時、聖書によりますと全部光にはされなかった。ということなんです。最初から全部光にしておいてくださると夜も明るいですね。闇を残されているんですね。全部この世を光にされたのではなくて、闇も残された。神は闇も大切にされたんです。この世界に光を創った時、あえて闇も残された。そして名前さえつけられた。と聖書に書かれています。闇に名前さえ神様はおつけになり大事にされた、闇に役割を与えられた、そういうふうには読めるんです。神様はあえてこの世界に闇を残されたんです。そこに役割があった、意義が存在する。どんな役割だったと皆さん思いますか。私は二つあると思うんですね。いえ、もっとあるかもしれませんが、一つは闇、暗闇の中にいると、人と人とが親密になり協力しあわなければ歩けないことがわかる、そんなことを闇は時として私たちに教えてくれます。闇は人と人とを親密にさせる。愛し合う心を育

んでいける。

例えば私はこんな経験をしたことがあります。ボランティアで昔、電話相談をしていたことがあります。かなり長い間やっていたのですが、その電話相談をするためには2年間カウンセリングの研修を受けなければいけなかったんです。ある時こんな勉強をしました。二人一組になって一人が目隠しをして散歩に連れていってもらいます。私の方が目隠しをして連れて歩いてもらったんです。私と組んだのは初対面の女の子でした。その目隠しをした瞬間からどこを歩いていいかわからない。「こちらよ。」「もう少し先。」「3歩進んで左よ。」もうその人に頼るしかないんですね。じっと任せるしかない。暗闇の中でその人の言っていることを信じて歩くしかなかった。何もかもお任せし、信頼して、そしてもどに戻ってきて目隠しをとった時に、初めて会ったその人に、もうずっと昔から知っている人のような親密な一体感を感じたというように、不思議な経験をしました。闇は人と人とを親密にさせるんです。協力しなければいけないことを教えてくれるんです。

キリストがお生まれになったその知らせを受けた羊飼いたちも、外の暗闇で天使からイエスの誕生のことを聞きました。キリストに贈り物を届けた博士たちも夜、不思議な星を見つけました。みんな暗闇の中で協力しあって歩いて、イエス様のいる

飼い葉おけのところへ行っただけです。人は闇の中で協力しあって生きていく。今の時代は朝起きて、夜目をつむる瞬間まで明るいところに私たちは住んでいます。道に街灯があり、家に戻れば昼の明るさよりももっと明るいような電気の下で暮らしております。私たちは暗闇を求めるわけではありませんが、暗闇の意味、神様が残された闇の意味、意義をお互いに知っておく必要があるんじゃないかと思うんですね。

#### 暗闇があるから見える光

さて、私が考えるもう一つの闇の役割、それは暗闇があるから光が見えてくる。くっきり見えるということです。羊飼いたちも暗い夜だったからこそそこに輝く天使がよく見えたし、博士たちも夜だったからこそ、東方から小さな星がくっきり見えたんです。闇があるから光が見えてくる。今ここに4本ろうそくが見えていますが、気が付かない方もいます。でもここが暗かったら真っ暗だったらどうでしょう。夕べだったら、この光がみなさんにくっきり見えていると思います。暗闇の役割について私の考えるところを少し述べさせていただきました。闇は人と人とを近づけ、共に手を取り合って協力しあわなければいけないことを

教えてください。そして暗闇があるからこそ光があるって私たちはわかる。今外に出て星を見つけることができるでしょうか。神様は闇を残されたんですね。

#### 神様からのプレゼント

さて、暗闇は聖書の世界では人の心の暗闇にも例えられています。暗闇の世界で生きなければならぬ人々、家もなく、暗い谷間に住む人々、しかしそこに光が昇る。暗いからこそ救い主が見えたんです。貧しい羊飼いたち、暗い中で夜通し働く人々にこそ救いの光が見えた、くっきり見えたんです。聖書のイザヤ書9章1節にこんな言葉があります。「闇の中を歩む民は、大いなる光を見、死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。」まもなくクリスマスイブをむかえます。時には彼氏彼女、友人たちと暗い部屋に1本だけろうそくを立てて暗闇の中で助け合い、協力しあう大切さを確認しあうのもいいと思うんですね。そして、貧しく暗い中で生きる人々にこそ理解できるように貧しさの中でイエスという方が光としてこの世に誕生して下さったこと、そんな神様からのプレゼントを感じながら、今年それぞれのクリスマスイブをむかえてはいかがでしょうか。



(ふくい さとる キリスト教センター主事 2015.12.22. クリスマスチャペルアワー奨励)